

支える会

発行責任者
柚木康子

大田区羽田3-3-15
デラキタワー202
TEL03 (6423) 7878

メール
sasaerukai@plala.or.jp
n.plala.or.jp

「日も早く全面解決をめざして 皆様の支援を重なお願ひします」

昨年七月に通信第四号をお届けした以降、すっかりご無沙汰し申し訳ありませんでした。

JAL闘争ささえる会では、所属組合の別なくJAL会議

団として結集するすべての被解雇者の皆さんが国民支援共闘に結集して闘える状況が一日も早く実現できるよう見守ってきました。

支える会は事務局長柚木その他、運営委員の数名が支援共闘会議に参加しており、この間の推移を見守ってきました。日本航空乗員組合(JFU)と日本航空キャビンクルー



JAL闘争を支える会
事務局長 柚木康子

ニオン(CCU)は、労使交渉を中心に解決をめざしていく方針のもと、希望者の復職に向けマッチングを進めこれまで八名(JFU五名、CCU三名)が地上職へ復職しました。

支援共闘会議幹事会では、二月に客乗原告団が活動休止を表明、四月に乗員組合から七月末まで外部街宣行動を控えてほしいとの要請があり、当面の対応策として「国民共闘として、本会議の全面解決を図るべく、引き続き統一要求四項目の実現をめざし、原告団を支援して運動を進めるとする基本的考え方を維持し、①この間、国民共闘として様々な努力を尽くしてきたが、原告団及び、原告団を組織する各労組が一体となって共闘や共同行動推進することが困難な状況にある。②以上を踏まえ、国民共闘の今後の運営について

は、幹事会等を適宜開催し、関係各労組より闘いの現状等を報告し合い、争議の進展状況など情報の共有化を図ることとする。③また、情報の共有化を図る報告と論議の中で、可能な取り組みが確認できれば、それを具体化し取り組みを進めることとする。」「が確認されています。

支える会は活動休止表明以降争議団会計への支援金の振り込みを中止しておりますが、現に活動している被解雇者もおられ、各地の支える会活動も続き、支援の在り方についての問い合わせもいただきました。

そこで三月一日運営委員会を開き現状を踏まえ、支える会の目的に沿って「不当解雇撤回を求めて闘う被解雇者への支援を行うこと」とし、六月初め事務局を担う被解雇者と客乗原告団メンバーの参加を得て議論を行い、様々な意見は出されましたが、左記の確認をおこないました。

・六月より、二月にさかのぼって闘争支援を被解雇者に行う。
・七月中を目途にニュースを発行する。

引き続き支える会の更新をお願いします

JAL争議は、一二年目に入りました。JALは整理解雇後、客室乗務員は六二〇五名、パイロットは三九七名を採用しています。経営者が「必要のない解雇」という整理解雇が「ものをいう労働組合員」を排除する狙いであつたことがすでに明らかです。

三月以降、会費更新の願いもストップしており、支える会の財政も厳しくなっております。一日も早く全面的な解決が実現できるよう、皆様の支える会への引き続きのご支援を重ねてお願いいたします。

争議解決！ 争議回紹介

未来への創造を
産む卵を育てる
境を頂戴感謝申
し上げます

森本則文さん(六四歳)
(乗員原告団)
JAL安全推進本部
B767副操縦士

いつも私共をご支援下さり誠にありがとうございます。

皆様の長年に渡る力強いご支

援のお陰で、日本航空に雇用での解決の道を開かせ、私も応募でき、三度の面接試験を経て合格出来ました。

パイロットへの無条件復帰ではなく、安全啓発センターガイドと御巣鷹山登山支援を主担務とする地上職・安全推進本部配属でした。私を迎えてくれたのは、入社式の冒頭、本部長が「整理解雇でご心痛をお与えた事、大変なご苦労をお掛けしてしまつた事をお詫びします。」と最敬礼で謝罪された挨拶から始まりました。

私はボーンラス・昇給無し、六五歳までの限定雇用条件は不本意でしたが、次に採用を待つ仲間の為に先ずは自分が入社し、社内で私を通して原告団の仲間の困窮度、被害度実態を知って貰い、社員理解者を増やす事が急務と認識し、真実を語る雰囲気を作つて参りました。

入社一年目を節目に先月、部内会議の公式の場で「破綻を知ると題した自身の経験、裁判の過程等JALFIO出身管理職に囲まれた組織から求められて真実を公開出来る機会を設けられ、温かい拍手を頂きました。私を取り囲む職場は利他の心で安全を常に最優先する教育を

行う最前線だからこそ、この部署から全社に生きた経験者の証言が浸透して完全解決への布石と成る事を望んでおります。

それらが出来るのも支える会の方々の変わらぬご支援の賜物です。

未来への創造を産む卵を育む環境を頂き感謝申し上げます。

戦後労働史上前例がない被解雇者の復帰です

森陽子さん C C U被解雇者組合員 (二〇二二年六月一日投稿)

一年ぶりのご報告になりますが、この間C C UとC C U被解雇組合員四名は「交渉を中心とした争議解決」を目指して奮闘し、今春には三人目の地上職復帰が実現しましたが、労働史上に於いても大きな意義がある「最高裁で敗訴確定後職場に戻った例は戦後労働史上前例がない」被解雇者の復帰です。

数年間の回避努力も虚しく、客乗原告団は事実上分裂してしまいました。

そして『支える会』の皆様には、本年二月、分裂に至った経緯(事実関係)と、「当面客乗原告団としての活動を休止する。なお客乗原告団としての活動は休止しても、今後はそれぞれの組合の方針に則って取り組んでいく」との方針をお伝えし、「静観」「温かい見守り」をお願いしております。

そしてC C UとC C U被解雇組合員四名は今春闘、会社へのメッセージを発信しました。

夏闘終結までに会社からは「感銘した」「非常にJ A Lのことを大変大事に思っており、好きで、そういう思いが非常に伝わってくる。そういう方々であるがゆえに、その当時の悔しさであるとか、悲しさであるとか、その強さが非常に良く感じられる。そういった文章ばかりだと思う。大変心打たれた。役員で共有したい。」(社長)などの感想を引き出しました。

この運動が、会社の背中を押す大きな力にもなっています。

来ています。

目標の株主総会には間に合わないかもしれないが、今夏には皆さまで解決のご報告ができるよう、C C Uと共に一致団結し、奮闘継続致します。

引き続きのご支援を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

都労委を軸にした闘いで二二年目の争議を解決させる決意です

宝地戸百合子さん (J A L被解雇者労働組合(都労委))

被解雇者労働組合(J H U)は、東京都労働委員会(都労委)に、J A Lと国交省の不当労働行為の救済申立てをしています。

J A Lは、オミクロンを理由に団交を引き延ばし、国交省は労働委員会から、組合からの申立て書について認否・反論を求められています。

未だに出されていません。更に代理人が決まらないことを理由に、予定された調査にも出席しないために日程が決まらず、労働委員会から「遺憾」と発せられました。

次回七月二十八日には出席するものと思われま。

J H Uは三月一日に具体的な解決金の要求を、また、五月三日の団交で、原職復帰を求める四名の名前を提出しています。

ようやく開催された四月と五月の団交では、実質的な交渉が行われましたが、一六五名だけを特別扱いできないとして、要求に答えようとしていません。

二〇一二年に客室乗務員の新規採用が開始された時に、I L O一六六号勧告(復職の優先雇用)に照らして、なぜ職場に戻らなかったのかの質問については答えられませんでした。

次回の団交で更に会社に迫ります。

二〇一八年の株主総会以降、経営トップが毎年争議を解決したいと述べながら、争議は未だに解決していません。

二・一六東京集会後、岡山と京都での宣伝や集会、また四国ではキャラバンが行なわれました。

そして五月二十七日にスタートした関東キャラバンは、六月一日最終日にJ A L本社に集結しま

した。

同日に、一三〇名の研究者による「J A L争議の全面早期解決を求める声明」が、代表者から国交省とJ A Lに提出され、株主総会に向けて大きな運動を作りました。

都労委を軸にした闘いは後押しすべく更に運動を上げ、二二年目の争議を早期解決させる決意です。

JAL株主総会会場前宣伝行動



2022.6.21 東京ガーデンシアター

各地の活動報告

JAL闘争を支える京都の会



○名を超える参加者があ
ります。

伏見・大手筋商店街で
宣伝行動をおこなってい
るのは、JAL一六五名
を解雇した当時のJAL
会長・稲盛和夫氏が、こ
の近くに住んでおられる
からです。

この商店街は人通りも
多いですが、ピラを受け
取ってくださる方も多く、
ピラを受け取らない方でも、
横断幕を注目してい
かれる方も多いです。ま
た、話しかけて来られる
方も多いのが、この商店
街の特徴です。稲盛和夫
氏やJAL、国土交通省を追
いつめているという手ごたえ
を感じる宣伝行動です。

五月一日にはJHUI山口
宏弥委員長とJHUI神瀬麻里



子副委員長をお招きして「J
AL争議を支援するつどい」
を開催しました。多方面の
産や団体・個人にご参加い
ただき、運動の広がりに展望が
見える集会でした。

今後もJAL争議が解決す
るまで、運動を続けます。
(JAL闘争を支える京都の
会 事務局長 駒井高之)

日本航空の
不当解雇撤回をめざす
福岡支援共闘会議日本航空の不当解雇撤回
福岡支援共闘会議第1
2022年4月26日

した。

また、総議解決にむけて官
民一体で引き続き活動に参加
しようという国公の仲間や、
過去の経験に照らして「争議
団の団結なくして解決なし」
という国労の仲間からの熱い
発言もありました。

福岡の地では、総労働対総
資本と言われた「三井三池闘
争」や、県労連と県連合がブ
リッジ共闘で闘った国鉄闘争
の歴史があります。いずれの
たたかひも団結の維持に大変
な困難を伴うものでしたが、
最終的にはそれぞれが解決の
テーブルに着くことができました。

日本航空の不当解雇撤
回をめざす福岡支援共闘
会議(略称・福岡支援共
闘)は、本年四月二十六日
に第一二回総会を開催し、
二名の共同代表をはじめ
とする一七名の役員体制
を確立しました。総会で
は、毎月二カ所での定例
宣伝行動を中心とした運
動の経過報告と財政報告
が承認され、争議団を構
成する組合・争議団の団
結を強く促すとする新た
な活動方針が確立されま

ともにがんばりましょう!
(支援共闘会議福岡 県国公
幹事)



JALに争議を支援する かながわ連合会



解決をめざす関東キャラバンでは、五月一六日から二〇日に神奈川県内二二名の地元国会議員要請と五月二八日に小田急本厚木駅、JR藤沢駅、JR川崎駅で宣伝行動を行いました。

本厚木駅前では、政党の宣伝とパッシングしましたが、先日の地元国会議員要請に行きた方、議員本人に挨拶し、場所を分け合って宣伝を行いました。

二六名でティッシュ入りチラシ六〇〇枚を配布し、横断

シユ入りチラシ二〇〇枚を配布しました。

ピラの取りも良く、通行人からの声掛けも多く、五〇分ほどでまき

切り、その後はティッシュ無しのピラ配布となりました。

神奈川のうたごえ協

議会とJHU合唱団の「翼よ、高く輝け！」

(元国鉄争議団作詞)をはじめとした歌による訴えで宣伝を終わりました。

(JAL争議を支援するかながわ連絡会・宮

垣 忠)

国交省に要請する醍醐先生



ひたむきに 誠実に

細井さんの訃報が昨年二月一七日に届いた。

数日前から連絡が取れなかった結果の悲しい報せだ。

細井さんと最後に会ったのは一月二二日、比谷図

書文化館小ホールで開催された労契法二〇条裁判メ

ロコマースの元原告による「怒りの不当判決！その後の報告集会」だった。

細井さんはJALの不当な整理解雇の責任を問う闘

いを願っていた。

今年五月四日細井さんを偲ぶ会がもたれ、会場いっぱい

の参加者に、細井さん

の一〇年余の活動を見る思いだった。

胡弓を弾く細井さんの映像で生前の姿を思い、学生時代の友人やJAL争議支援者からの追悼の言葉を聞きながら、不当解雇撤回を懸命に闘った細井さんの願いに添えたいと思った。

今細井さんは京都の墓所にご両親と共に眠っている。一日も早く納得いく解決を墓前に報告したい。

(柚木康子)



在りし日の細井さん
龍戸中央公園にて